

漁海況月報

令和6年5月31日
愛知県水産試験場 漁業生産研究所

1 海況

○ 黒潮流路

5月24日の人工衛星画像によると、黒潮は潮岬沖北緯31度付近から野島崎へ向かって北上するA型流路となっている。

○ 渥美外海の状況

渥美外海の表層水温は、黒潮系暖水の分布と気温の上昇によって昇温傾向にある。石廊崎沖北緯34度付近から西向きに暖水波及が生じており、渥美外海沖合に及んでいる。また、ごく沿岸域は内湾系水が張り出し、東へ向かって流れている。

○ 予想

現在、流路変動に影響する黒潮流量の指標となるトカラ海峡（名瀬－西之表）の潮位差は高水準で推移している。一方で、潮岬沖の冷水渦は、依然大王崎沖北緯31度付近まで分布していることから今後も大蛇行流路が継続すると考えられる。

(参考：潮位データを用いた黒潮モニタリング；<https://ovd.aori.u-tokyo.ac.jp/tides/time2.html>)



図1 海況の現況[2024年5月24日]

2 イワシ類

(1) シラス

しらす船びき網連合会（10ヶ続以上）は、5月は7日間出漁した。

三重県や愛知県ぱっち網漁業者と協力して取り組んでいる内湾の自主禁漁は継続しており、操業は渥美外海のみで行われている。1日1ヶ続あたりの平均漁獲量は、5月中下旬は20～40カゴであった（図2）。

シラスの全長は、カタクチシラス、マシラス共に5月15日以降、増大が確認された。一方、小型個体の加入については、カタクチシラスでは見られたが、マシラスでは見られなかった（図3）。

シラスの種組成（重量割合）は、ウルメイワシは月初に最高（25%）となり、その後は低下した。マイワシは5月15日が最高で3種の中で最も高い割合となり、その後低下傾向にある。カタクチイワシは、マイワシ加入時に一時的に低くなったが、その後は上昇傾向にある（図4）。これは、他2種に比べて断続的な小型群の加入があることが要因として考えられる。

5月31日現在のシラスの月計漁獲量（380トン）は、前年同月（243トン）を上回り、平年同月（過去10年平均1,509トン）を大きく下回っている（表4）。

5月9日に伊勢湾北中部、5月17日に伊勢湾南部で実施したボンゴネット調査では、カタクチイワシの仔魚が採集され、いずれの点でも前年及び過去5年平均を上回り、仔魚は湾南部で、卵は湾中部で多かった（表1、図5）。仔魚の大きさは、ふ化後間もない3～4mmが最も多く、大きくなるにつれて尾数は減少した。湾南部が大型個体の割合が高かった（図6）

ノルパックによる卵採集数（4,893個）は昨年（132個）及び平年（1,166個）を上回り（表3、図7）、仔魚採集数（961尾）は昨年（9個）及び平年（115個）を大きく上回った（図8）。

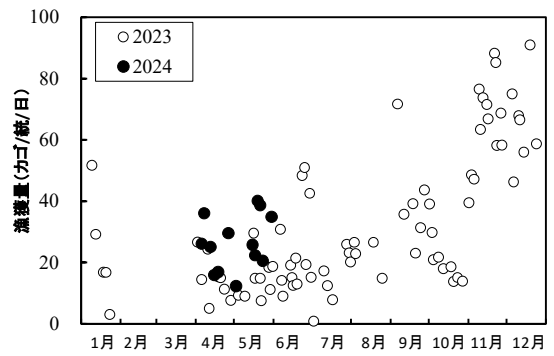


図2 シラス CPUE の推移

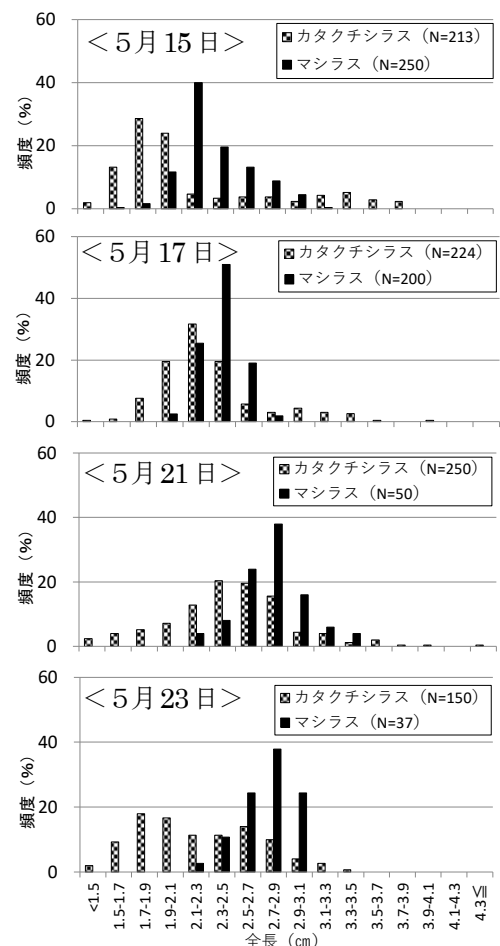


図3 シラス全長組成の推移

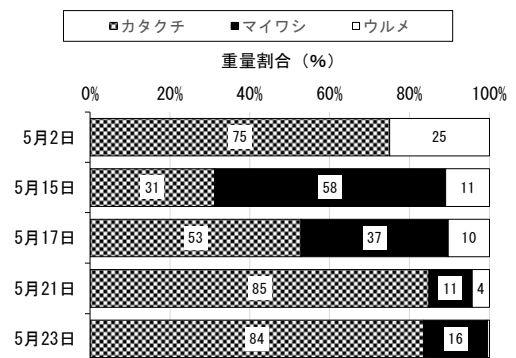


図4 シラスの種組成

現在、黒潮流路はA型で推移しており、東海沖の黒潮縁辺にはカツオの竿つり漁場が高密度に形成されており、その海域にはカタクチイワシが分布している可能性がある。よって、黒潮系暖水波及に伴うシラスの来遊の可能性は十分にある。

一方、内湾では来遊したカタクチイワシ親魚による産卵が継続しているが、4月に比べると生殖腺熟度指数は低下している（図9）。5月に一時的に湾口部でまとまった漁獲があったが、内湾由来のシラスと考えられる。

内湾を全面禁漁としていることで、産卵の確保及びふ化直後のシラスの保護が図られている。今後、季節的に降水量が増加していき、内湾で産卵された卵や仔魚が外海へ流される可能性はあるが、保護した卵や仔魚が順調に生残すれば、内湾や外海でも漁場形成が期待できる。

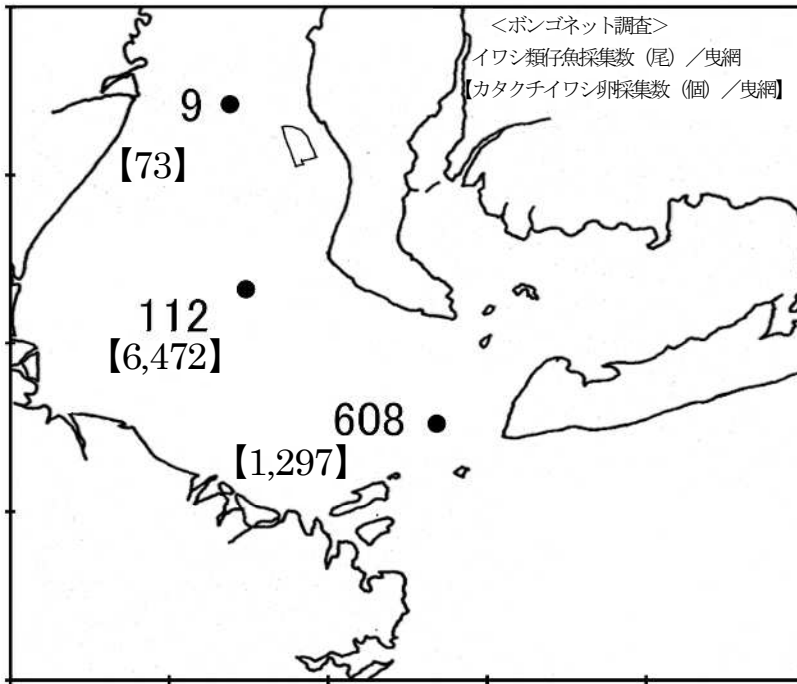


図5 カタクチイワシの仔魚【卵】の採集結果
(ボンゴネット調査)
(湾北部、湾中部：5月9日、湾南部：5月17日)

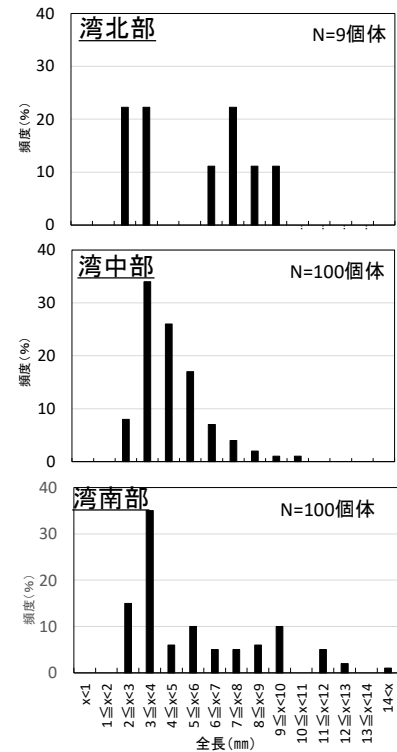


図6 カタクチイワシの仔魚の全長組成

表1 カタクチイワシの仔魚の採集結果 (ボンゴネット調査)

年	定点	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2019	P-3	1	1	868	1	92	0	2	-	-	965
	P-10	0	13	39	278	3,962	0	25	-	-	4,317
	P-17	0	118	3	14	16	4	0	-	-	155
2020	P-3	-	-	320	48	248	2	0	10	-	628
	P-10	-	-	1,232	168	352	8	16	28	-	1,804
	P-17	-	-	1,056	104	336	176	4	72	-	1,748
2021	P-3	26	1	6	3	28	-	65	3	-	132
	P-10	30	0	1	36	0	-	29	24	-	120
	P-17	12	0	1	8	268	-	38	8	-	335
2022	P-3	0	29	28	113	166	9	8	111	-	464
	P-10	29	41	50	34	134	9	5	130	-	432
	P-17	7	172	10	32	21	1	8	16	-	267
2023	P-3	0	0	-	184	57	129	-	19	-	464
	P-10	0	0	-	259	191	31	-	54	-	432
	P-17	0	0	-	6	76	128	-	5	-	267
2024	P-3	0	9	-	-	-	-	-	-	-	464
	P-10	0	112	-	-	-	-	-	-	-	432
	P-17	0	608	-	-	-	-	-	-	-	267
2019-2023 5年平均	P-3	7	8	306	70	118	35	19	36	-	531
	P-10	15	14	331	155	928	12	19	59	-	1,421
	P-17	5	73	268	33	143	77	13	25	-	554

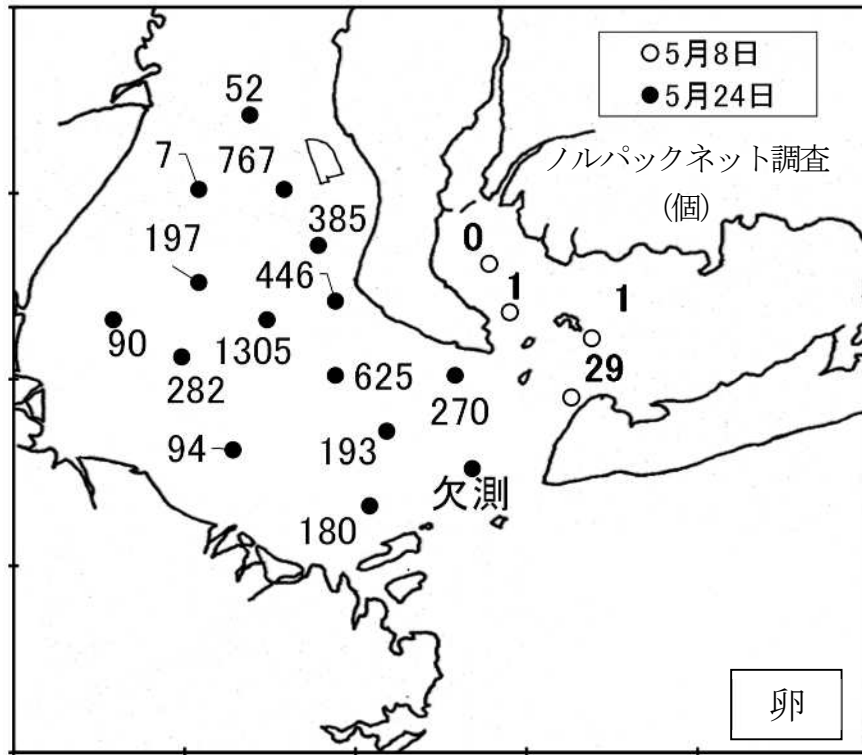


図7 カタクチイワシの卵の採集状況

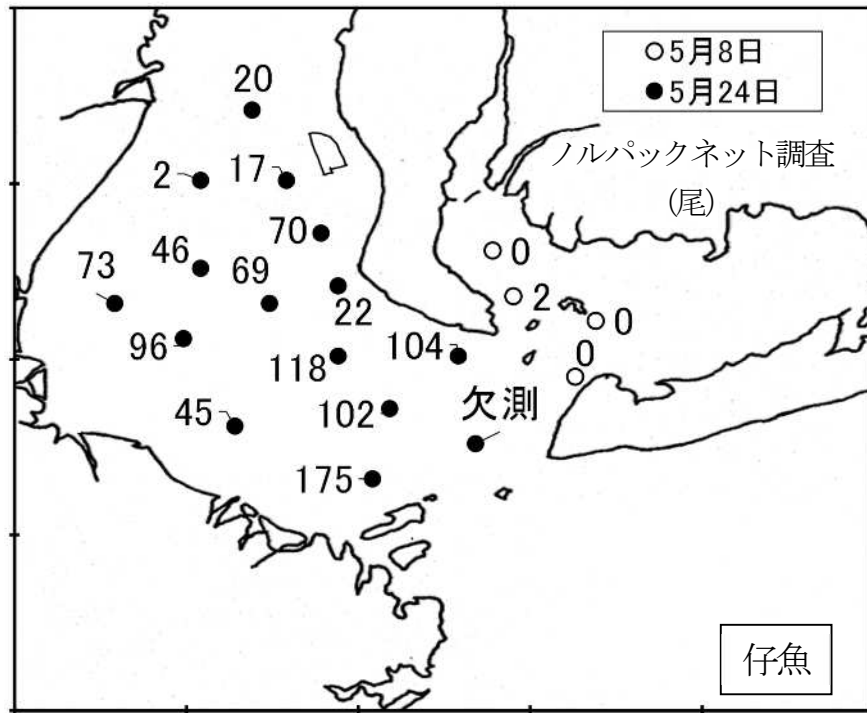


図8 カタクチイワシの仔魚の採集状況

(2) マイワシ・カタクチイワシ (未成魚・成魚)

ぱち網は、内湾の小型魚や、外海から来遊する成魚を保護するため、操業を自粛している。

伊勢湾内で操業する小型底びき網漁業者からの聞き取り情報によると、4月に魚群探知機で見られたカタクチイワシの反応は、5月に入り減少したとのことであった。

底びき網で混獲されたカタクチイワシ（5月24日）の平均体長は、10.5 cmで、肥満度は10.0と高く、生殖腺熟度指数KGも4.6で成熟度は高かったが、4月に測定した結果に比べると、生殖腺熟度指数は低下していた（図9）。4月中、湾内で盛んに産卵したものの、来遊群の産卵のピークは過ぎたものと考えられる。

今年は、4月に早い時期に内湾に親魚の来遊があり、産卵も早く、産卵量も多かった。しかし、内湾に来遊した親魚尾数が非常に多いという確証は今のところない。熊野灘でのまき網や、遠州灘での底びき網でもカタクチイワシの大型成魚の混獲はないことから、沖合回遊群の来遊は今年もないと考えられ、内湾への親魚の大量来遊は考えにくい。

今年も昨年までと同様、来遊親魚を十分に産卵させて、小型魚を大きくしてから漁獲する管理手法が適している資源状況であると考えられる。

6月、7月の親魚保護によって、9月以降の漁獲量が増加するため、内湾に十分な資源が確認されるまでは、未成魚・成魚の漁獲は慎重に検討し、年間漁獲量の最大化を図る方が望ましいと考えられる。

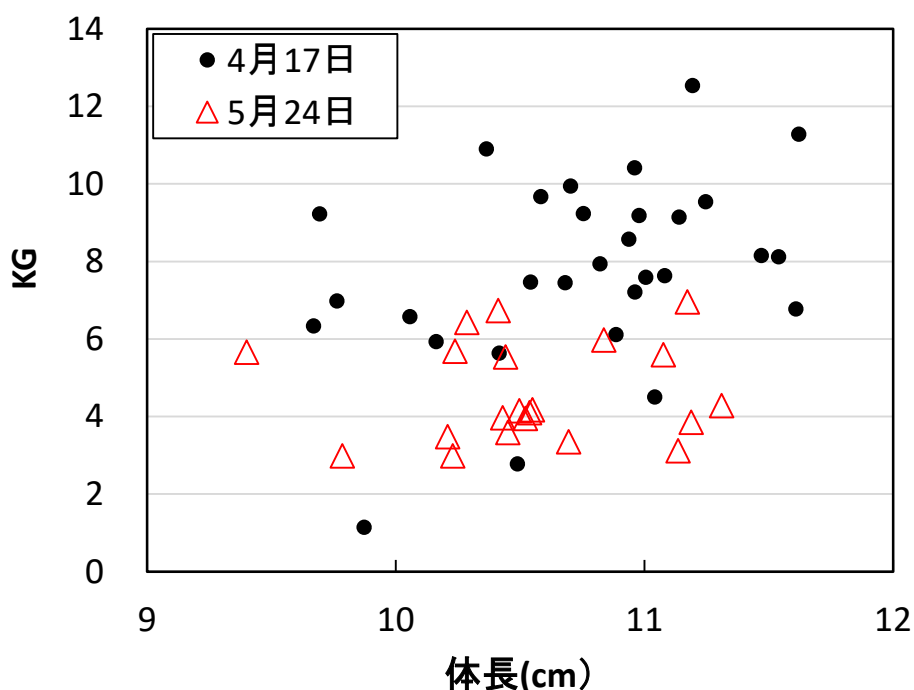


図9 カタクチイワシの体長と生殖腺熟度指数 KG

※2022年9月の調査定点は3定点。

表2 渥美外海のカタクチイワシ卵採集数(15点合計)

※2024年4月の調査定点は2定点。

(単位:個)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2017	欠測	0	2	208	14	147	178	11	4	0	0	0	564
2018	0	0	72	102	25	144	154	0	欠測	0	0	0	497
2019	0	0	62	39	57	29	97	58	54	0	0	0	396
2020	0	0	0	1	0	116	30	89	11	13	3	0	263
2021	0	0	24	46	25	186	88	25	17	0	0	0	411
2022	0	欠測	23	1	203	212	247	351	5	0	0	0	1,042
2023	0	0	0	1	3	82	130	12	89	欠測	5	0	322
2024	0	欠測	0	0	欠測								0
10年平均	0	0	104	153	68	107	118	68	48	25	1	1	686

表3 伊勢湾のカタクチイワシ卵採集数(15点合計)

(単位:個)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2017	-	-	-	0	17	29	215	494	2	1	1	-	759
2018	-	-	-	0	438	65	360	70	欠測	41	62	-	1,036
2019	-	-	-	0	70	2,518	2,593	627	52	37	118	-	6,015
2020	-	-	-	506	6,126	4,561	1,442	4,698	735	211	6	-	18,285
2021	-	-	-	2,985	1,227	2,258	1,765	2,607	746	212	25	-	11,825
2022	-	-	-	559	1,624	756	2,522	2,575	435	462	336	-	9,269
2023	-	-	-	0	132	3,256	2,004	5,798	1,216	欠測	29	-	12,435
2024	-	-	-	4,252	4,893								9,145
10年平均	-	-	-	406	1,166	1,506	1,241	1,985	385	184	174	-	6,991

表4 愛知県シラス類漁獲量

※5月31日現在

(単位:トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2017	5	0	0	885	2,247	0	11	38	31	172	85	104	3,579
2018	0	0	97	957	1,917	9	66	379	553	797	295	660	5,730
2019	0	7	389	676	1,472	1,349	884	1,119	1,514	45	9	302	7,767
2020	0	10	219	428	658	1,629	590	1,933	131	493	148	492	6,731
2021	0	2	101	1,295	631	676	392	48	1,098	1,397	743	317	6,700
2022	0	1	3	253	1,150	831	9	407	82	158	4	335	3,232
2023	145	0	10	194	243	595	169	135	335	245	1,239	646	3,956
2024	4	1	22	272	380								678
10年平均	16	2	92	747	1,509	711	281	525	471	739	687	467	6,248

表5 愛知県カタクチイワシ漁獲量

※5月31日現在

(単位:トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2017	15	21	62	23	194	3,039	2,659	1,725	1,038	340	583	346	10,045
2018	0.3	7	0	12	33	2,795	1,654	945	1,294	149	13	40	6,943
2019	172	38	32	2	0	1,339	4,128	1,692	1,432	2,564	803	515	12,717
2020	4	35	27	0	0	0	2,698	2,115	1,620	2,924	1,920	2,117	13,462
2021	302	48	0	0	0	0	691	1,062	719	766	1,674	1,593	6,853
2022	505	0	0	0	0	0	532	2,453	3,462	1,118	1,055	1,044	10,169
2023	81	0	0	0	0	13	1,501	3,691	574	1,310	895	883	8,949
2024	160	0	0	0	0								160
10年平均	184	37	14	82	135	1,628	2,994	2,208	1,882	1,293	1,068	875	12,400

表6 愛知県マイワシ漁獲量

※5月31日現在

(単位:トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2017	0	0	0	0	181	1,380	6,258	5,153	4,497	5,445	3,311	1,888	28,114
2018	61	0	0	0	0	2,605	5,555	4,999	4,701	2,944	1,103	2	21,970
2019	210	40	4	0	0	1,311	2,634	3,886	1,417	152	256	7	9,917
2020	0	0	0	0	0	0	3,502	1,995	2,351	174	15	5	8,042
2021	0	0	0	0	0	0	6,128	4,125	3,476	703	35	5	14,471
2022	0	0	0	0	0	0	2	1,666	179	791	52	0.15	2,690
2023	0	0	0	0	0	0	0	10	4,195	86	18	0	4,308
2024	0	0	0	0	0								0
10年平均	42	12	0	0	23	596	2,661	3,074	2,877	1,759	800	333	12,177